学苑・環境文化紀要　No.777　2～20（2005・7）

バリ島地域都市広場形態についての考察

―2004年第16回海外都市広場調査報告―

芦川　智・金子友美
鶴田佳子・高木亜紀子・丹生多美

The Report on the Form of City Squares in Bali
―The Field Survey of City Squares in Foreign Countries No.16―

Satoru ASHIKAWA, Tomomi KANEKO,
Yoshiko TSURUTA, Akiko TAKAGI and Tami TANSEI

We carried out our Bali island investigation in 2004. The people of Bali are for the most part Hindi whereas generally speaking the people of Indonesia are followers of Islam. In this way Bali is unique in Indonesia.

The researchers stayed in Bali for a short duration and within 6 days, visited 12 cities or villages and investigated their open spaces including the city squares in 3 cities and 5 villages. Among them in the following 5 villages Sembiran, Penglipuran, Bugbug, Tenganan and Tihingan, the researchers could get gratifying results finding the basic space composition of the typical Balinese community.

All 5 villages revealed the similar notion that people live with the Gods; community spaces and village centers are prepared in such a way that the Gods can alight when they descend. In other words, it means that the Balinese built their villages under the auspices of Hindu Gods.

Key words: city square（都市広場）, open space（空地）, field survey（フィールド調査）, village center（集落センター）, community space（コミュニティー空間）

（1）はじめに

都市の広場に目を向けて研究の対象としたのは1984年のことであり，現在（2004年）で，20年目となる。当研究室における継続的研究テーマ，10年間の中心課題として，海外都市広場の調査を始めたのが1990年である。調査報告は今回で14年目であるが，調査自体は16回目となる。以下にこれまでの調査実施状況を示す。

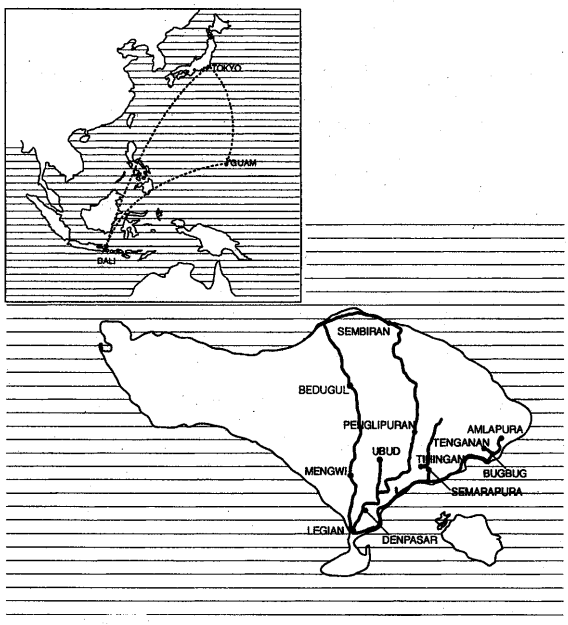
第１回は，東ヨーロッパ（ドイツ，ポーランド，チェコスロバキア，ハンガリー，ユーゴスラビア５カ国）を対象として行われ，第２回は東ヨーロッパ（ハンガリー，ルーマニア，ブルガリア）とトルコ，ギリシャ，イタリアの６カ国を対象とした。第３回はトルコ，ギリシャ２カ国を対象とし，第４回は，北欧とフランドルを中心としてドイツ，スイス，フランスを付加。第５回はアラビア半島南端のイエメンを，第６回はイタリア北部地域を対象として行われた。第７回は，モロッコ，ポルトガル，スペインの３カ国で実施され，第８回は，南仏，スペイン，ポルトガルの３カ国であった。第９回調査は，第６回の北部イタリアを補完するべく南部イタリアを対象地域とした。第10回調査は，ヨーロッパ中央部であるドイツを中心に，その周辺部を含めて対象地域とした。第11回調査は，第10回調査の補完の意味を含めてポーランドとベネルクス３国を対象地域とした。第12回調査は，チベットとネパールを対象地域とし，第13回目の調査はロシア・バルト３国とした。第14回目調査は中国蘇州周辺と三江周辺の地域とした。第15回目調査は，フランス，スイス，イタリアで実施した。今回は，春にインドネシアのバリ島で実施した。

（2）調 査 計 画

第１回調査：東ヨーロッパ（ドイツ，ポーランド，チェコスロバキア，ハンガリー，ユーゴスラビア５カ国）［平成２年９月初旬から25日間実施］
第２回調査：東ヨーロッパ（ハンガリー，ルーマニア，ブルガリア，トルコ，ギリシャ，イタリアの６カ国）［平成３年８月初旬から28日間実施］
第３回調査：トルコ，ギリシャ２カ国
［平成４年７月末から27日間実施］
第４回調査：北欧とフランドルを中心としてドイツ，スイス，フランスを加えた地域
［平成５年９月初旬から18日間実施］
第５回調査：アラビア半島南端のイエメン
［平成６年５月に13日間実施したが，内戦勃発のため中断，平成７年５月に再度実施］
第６回調査：イタリア北部地域
［平成６年７月末から25日間実施］
第７回調査：モロッコ，ポルトガル，スペインの３カ国［平成７年８月21日から29日間実施］
第８回調査：南仏，スペイン，ポルトガルの３カ国
［平成８年９月２日から24日間実施］
第９回調査：南イタリアを中心として北イタリア，オーストリアを加えた地域
［平成９年８月21日から25日間実施］
第10回調査：中欧地域としてドイツを中心としてチェコ，フランスを加えた３カ国
［平成10年８月10日から27日間実施］
第11回調査：ポーランド，ベネルクス３国の４カ国
［平成11年８月２日から22日間実施］
第12回調査：チベット，ネパールの２カ国
［平成12年８月24日から15日間実施］
第13回調査：ロシア・バルト３国等の７カ国
［平成13年８月４日から27日間実施］
第14回調査：中国蘇州周辺及び三江周辺
［平成14年８月29日から14日間実施］
第15回調査：フランス・スイス・イタリアの３カ国［平成15年８月25日から21日間実施］及びイギリス・フランス・スイス・イタリアの４カ国［平成12年９月14日から25日の12日間実施］，鶴田佳子の単独調査地を付加。
第16回調査：インドネシアのバリ島地域で実施
［平成16年３月14日から19日の６日間実施］

（3）調 査 概 要

①調査対象地域：インドネシア，バリ島
②実 施 期 間：2004年３月14日～３月19日の６日間
③調査メンバー
調査研究責任者：芦川　智
（昭和女子大学生活機構研究科教授）
調査研究責任補助者：金子友美
（昭和女子大学生活環境学科講師）
同　：鶴田佳子
（昭和女子大学現代教養学科講師）
同　：高木亜紀子
（昭和女子大学生活環境学科助手）
調査研究院生スタッフ：丹生多美
（本学生活機構研究科１年）
調査協力研究者：入之内瑛
（本学生活環境学科非常勤講師）
④2004年調査日程及び調査行程図



図－１　調査行程図

3月14日(日)TOKYO→GUAM→BALI
(DENPASAR)→LEGIAN
3月15日(月)LEGIAN→(KEROBOKAN)→
MENGWI→(PACUNG)→BEDUGUL→
(LOVINA BEACH)→SEMBIRAN→
(KINTAMANI)→PENGLIPURAN→
LEGIAN
3月16日(火)LEGIAN→AMLAPURA→
BUGBUG→TENGANAN→UBUD→
LEGIAN
3月17日(水)LEGIAN→SEMARAPURA→
TIHINGAN→(BUKIT JAMBUL)→
BESAKIH→(SUKAWATI)→(SANUR)→
LEGIAN
3月18日(木)LEGIAN→DENPASAR→
UBUD→LEGIAN→DENPASAR→
3月19日(金)→GUAM→TOKYO

(4) 調査内容と方法

調査準備は文献収集から始まる。文献資料から調査対象候補都市を選定し，その都市図と調査すべき広場の状況を把握し，歴史的経緯を読みとる作業を例年のごとく行った。一都市に広場は多く存在するが，その都市の中心となる空間を探し，そこに存在する広場を対象としていくことが原則である。

目標の都市に到着すると，その都市の市街地図や道路標識などを手がかりとし，現地の住民にヒアリングをしながらセンターゾーンにアプローチする。

①調査内容：具体的な調査内容は以下のようになる。
●測定・作業：平面形態（平面図の作成）／規模の測定／ファサードの記録（ビデオ，写真）／関係資料の収集（地図，パンフレット，絵はがき，文献等）
●観察・確認項目：都市における位置／広場名称／広場機能／周辺建築の種別
●その他，各調査員による観察・ヒアリング等

②調査機材：カメラ，ビデオ，距離測定機器，コンベックス，スケッチブック等

(5) 調査の結果

6日間の短い期間の調査であったが，12の都市・集落を訪れその内3都市5集落で調査を実施した。なかでもSEMBIRAN, PENGLIPURAN, BUGBUG, TENGANAN, TIHINGANの5集落において，バリ島都市・集落の基本的な空間構成の仕方を調査できたことは成果であった。また，バリ島都市・集落の生活空間は神とともにある住居であり，神の元につくられた都市・集落であるという認識を確認できたことがこの調査の結果である。(6)で調査地の概要を示し，(7)で各都市あるいは集落毎の調査結果を示す。

(6) 調査対象となった都市・集落と広場の概要（表－1　第16回海外都市広場調査リスト参照）

＜バリ集落を理解するための言葉リスト＞

アダット　adat
伝統。慣習。様式。
オダラン　odalan
バリの寺院の創立記念日。この日に祭が催される。
カウ　kauh
西
カジャ　kaja
山の方向（神聖な方向）
ガムラン　gamelan
伝統的なバリの楽団で，ほとんどは大型の鉄琴と銅鑼に似た打楽器からなる。
カンギン　kangin
東
カントル　kantor
事務所。役所。
クロッド　kelod
海の方向（不浄の方向）。カジャの反対。
サンガ　sanggah
祭祀の空間。さまざまな神を祀る場所。
ジャラン　jalan
道路。通り。
チャンディ　candi
ヒンドゥー・ジャワ期の仏塔や僧院などの宗教建築。
デサ　desa
村
デサ・アダット　desa adat
バリ島の伝統的な村の単位

表－1　第16回海外都市広場調査リスト

連番	広場コード番号	都市・集落名	調　査　対　象	備考（都市・集落の概要）
		メングウィ	市場	
1		MENGWI	PASAR DESA ADAT MENGWI	デンパサールの北15km。19世紀末までメングウィ王国の地。タマン・アユン寺院がある。
		スンビラン	集落全体	バリ・アガ（古バリ人）の村
2	INA-04-001	SEMBIRAN	名称不明	バリ島北部バトゥル山の北傾斜に位置する集落。
		プンリプラン	集落全体・住宅	東部バリ，バンリ王国の古い村
3	INA-04-002	PENGLIPURAN	TUGU PAHLAWAN JALAN （中心の通り名：トゥグ　パハラワン通り） 上記通りの№30に住むI WYN KOLEM宅	バンリ王国の中心であったバンリから山道を登る。南傾斜の集落。人口700人の古き良き村。1993年観光村指定。
		アムラプラ	市場	東部バリのカランアスム県の県庁所在地
4		AMLAPURA	PASAR AMLAPURA	カランアスム王国の都であった。アグン・カランアスム王宮が残っている。バリ島東部の中心都市。
		ブグブグ	集落全体	東部バリの平地集落
5	INA-04-003	BUGBUG	JALAN TELAGA NENBENG （中心の通り名：トラガ　ナンバン／川通り） （別名：BANYU WKA／泉水）	トゥンガナンと同じ地域で南北に帯状広場がある集落。カランアスム王国の集落。
		トゥンガナン	集落全体・住宅	東部バリ，バリ・アガの集落
6	INA-04-004	TENGANAN	JALAN DAUH（西通り） JALAN TENGAH（中央通り） JALAN TIMUR（東通り） JALAN KUBURAN LAN LAN JALAN TEGARAN GIMBARU INDIGOの店の住宅 　IWAYAN KONDRI宅 村長（KEPALA DESA TENGANAN） I PUTU SUARJANA, SS	チャンディダサの西の脇道の緩やかな斜面を，4km上った位置にある。南北に走る帯状広場が3本平行に並び集落を構造化している。その内の1本が主要なもので共用施設が配置されている。ウサバ・サンバ祭の中心の場となる。ダブル・イカットを織る村として知られている。
		スマラプラ	市場	バリ中央部，かってのクルンクン王国の都
7		SEMARAPURA	PASAR SEMARAPURA	現在クルンクン県の県庁所在地。クルンクン王国の芸術文化の中心地。水に浮かぶスマラプラ宮殿がある。
		ティヒンガン	集落全体・住宅	クルンクン王朝の楽器制作の村
8	INA-04-005	TIHINGAN	JALAN GONG GEDE（南北軸の通り名.GONGはドラの意） JALAN GONG LUANG（東西軸の通り名） I WAYAN MUSTIKA宅（JL. GONG GEDE NO. 16）	ガムラン楽器の制作工房がある村。村の中心は2本の道路が交差するところにある。そこにバレ・バンジャール（集会所）があり，バンヤン樹と先祖に捧げる寺が配置されている。
		スカワティ	市場	かってのバドゥン王国の都
9		SUKAWATI	PASAR SENI SUKAWATI	デンパサールの北東10km。現在工芸の村として豊富な工芸品を売るパサール・スニと呼ばれる工芸品市場がある。
		デンパサール	市場　2件	バリ州の州都，バリ島の中心地
10		DENPASAR	PASAR BADUNG PASAR BURUNG（鳥市場） MEDAN PUPUTAN（ププタン広場）	バリ島南部のバドゥン県の県庁所在地。バリ島の経済・政治の中心地。都市の名は「市場の北」の意。その中心はププタン広場となっている。
		ウブド	資料収集	バリの文化的観光の中心都市
11		UBUD	PASAR UBUD	デンパサールの北17kmでバリの美術，工芸，音楽，舞踏の中心地域。
		レギャン	資料収集，市場	観光リゾート拠点地域
12		LEGIAN	PASAR PAGI DESA ADAT LEGIAN	クタとともにバリ島観光リゾート地の拠点となっている。ホテル，レストラン，観光施設が集中している。

ナタール　natah
中庭。住居敷地中央部の神聖な空地。
ナワ・サンガ　nawa sanga
山・海<カジャ・クロッド>方位と東・西<カンギン・カウ>の基本方位に中間的な4つの方位及びそれらの中心点を加えたもの。9つの神によって表される方位体系で，<山・海・東・西>を基本とする方位体系とは，別ものであるという考えもある。
パサール　pasar
市場
バリ・アガ　Bali Aga
バリの先住民族。古バリ人。
バレ　bale
多目的利用の建物
バレ・アダット　bale adat
慣習的行事のための建物
バレ・バンジャール　bale banjar
バンジャールが共有する会合の場。会合とガムランの練習をする建物。
バンジャール　banjar
集会所。既婚男性全員からなる村の共同体グループ。
バンヤン　banyan
ベンガルボダイジュ。聖なる樹木。
プラ　pura
寺
プラ・ダルム　pura dalem
死者の寺
プラ・デサ　pura desa
日々の儀式のための村の寺
プラ・プセ　pura puseh
村の起源をたたえ，村の創始者を祀った寺。
プリ　puri
王宮

①地理

バリ島は，インドネシア（正式名称：インドネシア共和国）に属する島のひとつで，バリ州を構成する。島は東西方向約140km，南北方向約80km，面積5,621km²の火山島である。

バリ島は赤道の南8度の位置にあり，熱帯性気候に属し，平均気温は年間を通じて30℃。10月から3月は雨期で，ほぼ毎日スコールがあり湿度が高く，4月から9月の乾期は，晴天が続き湿度も下がる。ただし同時期でも海岸沿いと山間部では気候が異なる。

地形は島の大部分が中央部に位置する最高峰アグン山（火の神の宿る山の意）標高3,142mの斜面となっている。島北部では，狭い平地でコーヒーやコプラ（ココヤシ），米の栽培，牛の飼育が行われている。南部中央の平野は米作中心の穀倉地帯であり，人口が集中している。

住民はそのほとんどがバリ語を話すバリ人である。イスラム教徒が国民の90%を占めるインドネシアにおいて，バリ島はヒンドゥー教を信仰しその伝統を残す島として知られている。今日ではそうした島特有の踊りやガムラン音楽，石彫美術などが島の観光資源となっている。また，海岸沿いのリゾート地や，内陸部の熱帯樹の森やライステラス（棚田）も多くの観光客を集めている。

②歴史

紀元前2500年頃，中国東南部の河川流域からモンゴロイド系の民族が海を渡り，スマトラ島，ジャワ島経由でオーストロネシア語族の一派がバリ島に上陸した。約1000年後，インドネシア一帯に共通の海洋文化が広まったとされている。バリ島にも土器の製法が伝えられ，死者を土製の甕棺に埋葬する習慣が生まれた。

バリ島では9世紀以前から既に王朝が存在し，そのひとつであるシャイレンドラ王国の流れを汲む勢力は島の北部を，シュリヴィジャヤ王朝は島の南部を支配していた。10世紀半ば以降，シュリヴィジャヤ系のワルマデワ王朝が台頭し，東ジャワの王朝と婚姻関係を結ぶ。そこで生まれた子どもエルランガは，東ジャワ王族の婿養子となり，祖国バリとの絆を深めた。この頃からバリ島でジャワ文字やジャワ暦が使われ始め，ヒンドゥー教の影響を強く受けるようになった。

しかし1284年，東ジャワのシンゴサリ朝は突然バリを攻撃し，島をその支配下においた。だが，そのわずか8年後，シンゴサリ朝は内乱で滅び，代わって誕生したのがマジャパイト王国である。

マジャパイト王国は1520年頃滅亡するまで，インドネシア諸島を支配した。15世紀には香辛料を扱う商人を中心としたイスラム教徒が台頭し，ヒンド

ゥー社会を脅かしていった。やがて香辛料をめぐる動きは世界規模となり，香辛諸島（モルッカ諸島）に目を付けたヨーロッパ列強が相次いでインドネシア海域に進出した。バリ島に最初に上陸したヨーロッパ人は，1597年のオランダ船員たちであった。当時バリ島は，絢爛豪華な王朝文化の最盛期であり，そのためバリ島の楽園伝説が広くヨーロッパで流布することになる。その後オランダは，インドネシア諸島を植民地化し，貿易を独占するため，力によるバリ島支配をもくろむ。

1846年オランダ軍がバリ島に上陸し，その後半世紀にわたり戦乱が続き，その支配は1942年日本軍がバリを陥落させるまで続く。

1945年第二次世界大戦の終結と共にインドネシアの指導者スカルノは独立を宣言，1950年統一インドネシア共和国が成立した。

③バリ島の観光事業

バリ島の観光事業は，オランダ植民地時代の1924年バリ島を含む週一回の定期航路が設置されたことに始まる。こうした観光開発事業は，観光地バリ島の基盤となった。キンタマーニやデンパサールからクルンクンの道路沿いの見どころは，当時から観光対象として開拓されたものである。寺院の見学，舞踊の鑑賞，工芸品の販売にも早くから力が注がれていた。また，1931年パリ市東部ヴァンセンヌの森で開催された国際植民地博覧会において，オランダはバリ風の建築物を建て，バリ文化を大々的に展示紹介した。

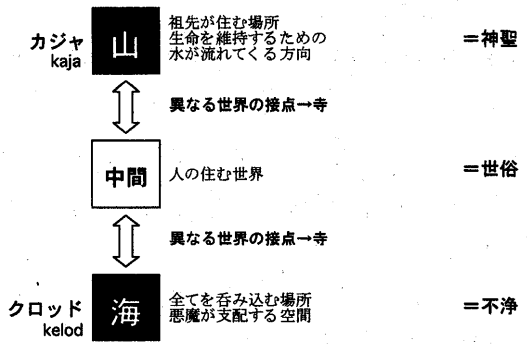
1931年新婚旅行でバリ島を訪れ，その帰路，この植民地博覧会開催中のパリに立ち寄ったミゲル・コバルビアスは，1933年にバリ島を再訪し1年ほど島に滞在，1937年『バリ島』をアメリカで出版し，それはベストセラーとなった。この『バリ島』は，一般読者を対象とし，バリ文化を総合的に英語で著したはじめての本であり，「神々の島」，「芸術の島」というバリ島のイメージを定着させる書物となった。

現在のバリ島は，世界中から多くの人々が訪れる観光地となっている。年間の観光客数は，2000年140万人を超し，国別では日本からの観光客が最も多く，この年は年間36万人を記録している。しかし，2002年10月の爆弾テロ事件では，「楽園の島」バリとは異なる面をみせている。

④建築と集落

バリ建築は，村・寺院・屋敷地・個々の建物全てが，バリの宇宙秩序概念に従っていなければならないという考えのもとに構成されている。その宇宙秩序は，神の世界（スワ swah），人間の世界（ブワ bhwah），悪魔の世界（ブウル bhur）の3つの宇宙世界から成り，同時に人間の身体の3つの部分，頭（ウタマ utama），身体（マディア madia），足（ニスタ nista）をも表す。

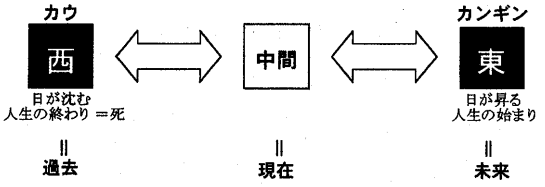
バリ語には北・南に相当する言葉がない。山側をカジャ，海側をクロッドと呼ぶ。そのため，島の中央山脈を境にカジャとクロッドの関係が逆転する。つまりバリ島の南部では北がカジャであり，島の北部では南がカジャとなる。山は祖先たちが住む場所であり，生命を維持するための水が流れてくる方向であるため，カジャは神聖な方向とされ，逆に全てを呑み込む海は悪魔の支配する空間であるとしてクロッドは不浄の方向とされる。人々はこれらの中間である世俗の世界に住み，異なる世界の接点の緊張を和らげるために寺をつくる。聖なる世界と世俗の世界の接点の寺は，人々と祖先の霊が対話する場であり，寺から山側には世俗的な建物はつくられない（図－2）。



図－2　カジャとクロッド

この南北の方位軸に加えて，もうひとつ方位軸がある。それは日が昇る方向，東を指すカンギンと日

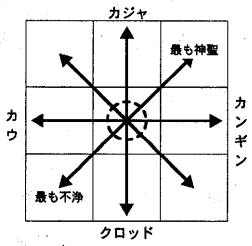
の沈む方向，西を指すカウである。カンギンは一日の始まりの方向で，人生の始まりも意味し，カジャと同じ価値を持つとされる。カウは死の方向で，クロッドと同じ価値を持つ（図－3）。



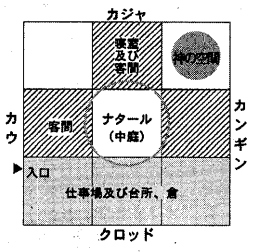
図－3　カンギンとカウ

これら2本の方位軸と，その中間的な4つの方位，さらに中心点を加えたものがナワ・サンガと呼ばれる。また一方で，ナワ・サンガは9つの神によって表される方位体系であり，前述の概念とは異なるとする説もある。いずれにしてもヒンドゥー文化を基底とすることには変わりない（図－4）。

このナワ・サンガの概念に基づいた屋敷地構成を図式化したものが図－5である。これに現地調査を行ったプランを対照すると，屋敷地内の施設の役割とその位置関係が明確になる。ここで紹介する集落はいずれも中央山脈南側に位置し，北側がカジャの方向になる。

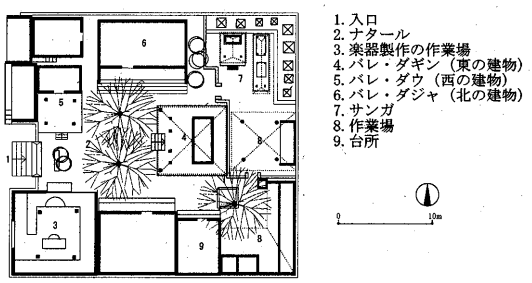


図－4　島南部での空間のヒエラルキー



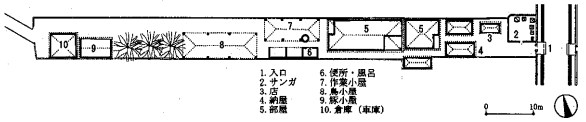
図－5　屋敷地内の空間配置

ティヒンガンの住居平面図を図－6に示す。屋敷地の入口は，西側に位置する。中央のナタールを中心に，バレ・ダウ，バレ・ダジャ，バレ・ダギンと客間や寝室が取り囲む。敷地の最も神聖な方角となる北東の位置には，先祖を祀るサンガがある。ナタールの南側は，作業場と台所になっている。

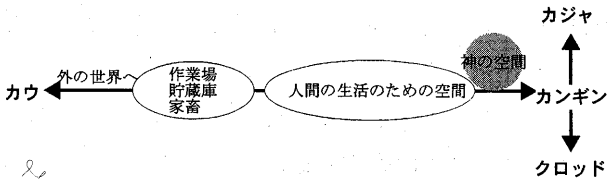


図－6　ティヒンガン住居平面図

屋敷地には，細長い形状の事例もある。プンリプランにおける屋敷地は，図－7のように東西に細長い形状をしている。この敷地の最も神聖とされる北東の角に，先祖を祀る場所が設けられ，敷地内の西部には家畜や農作業のための小屋が並ぶ。東から西へ向かって，神の空間，人間の生活のための空間，作業場や貯蔵庫という配列であり，敷地の最も西側は外の世界へ抜ける。つまりカンギンからカウへ向かって，神聖な空間から俗なる空間へと続く配列となっている（図－8）。



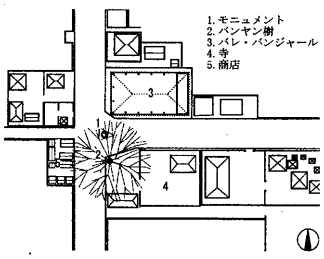
図－7　プンリプラン住居平面図



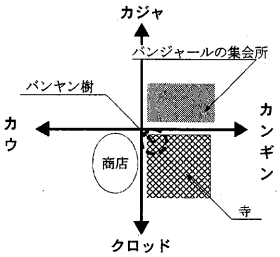
図－8　プンリプラン住居空間配列図

また，これらの方位軸は集落全体の構成にも影響を与えている。『神々と生きる村』（資料007）では，集落の構成を大きく二つのパターンに分けている*。ここで紹介する集落はいずれも中央山脈南側に位置し，北側がカジャの方向である。

ひとつは，東西・南北の道路が集落の中心で交わる形の集落で，調査事例としてはティヒンガンがあげられる（図－9）。この場合，2本の通りの交差点にあたる部分にはモニュメントが設置され，最も神聖とされる北東の角にはバンジャールの集会所がある。南東の角には巨大なバンヤン樹と寺がある（図－10）。



図－9　ティヒンガン集落中央部配置図

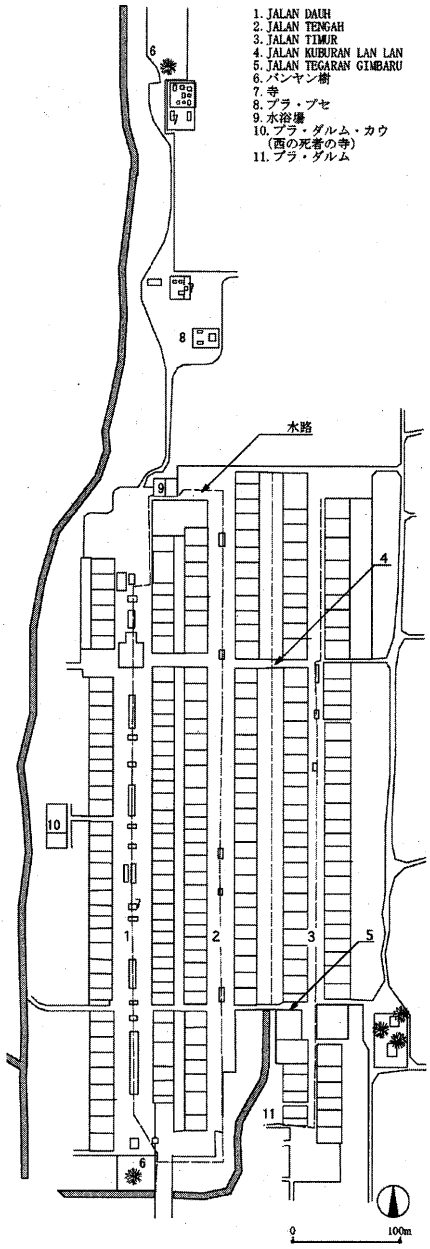


図－10　ティヒンガン集落空間配列図

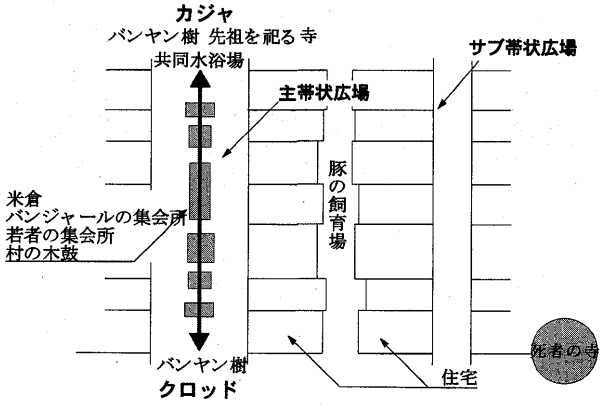
もうひとつのパターンとしては，集落の主軸となる空間がカジャ－クロッドの方位軸に沿って配されるものである。現状ではこの主軸となる空間は，ある程度の幅を持った帯状の空地である場合と，道のスケールである場合とがある。前者の調査事例としてはトゥンガナンやブグブグ，後者にはプンリプランがそれに属する。いずれも集会施設などの共用施設はこの空間に沿って配置される。またカジャの方向の集落端部には先祖を祀るプラ・プセ，反対側クロッドの方向端部にはプラ・ダルムが置かれることも共通している。

トゥンガナンでは，幅約40ｍのメインの帯状広場内に，20棟ほどの集会所，米倉の建物が並ぶ。その北端には共用の水浴場があり，さらにその北側にバンヤン樹と先祖を祀るプラ・プセがある。この帯状広場は，北側つまりカジャの方向が高く，南へ向かって低くなる傾斜地である。その傾斜に沿って設けられた水路により，高台の水浴場から集落の南端まで水が導かれる（図－11）。また，このメインの帯状広場の東側にはサブ帯状広場がある。こちらにもいくつか集会所があるが，メインの広場より幅員も狭く，人の往来も少ない。それらの帯状広場の間に並行して豚の飼育場がある。プラ・ダルムは，集落の南端に位置するがこれらの帯状広場からは外れた場所にある（図－12）。

＊同書の中では，これら２つの明確なパターンの他に，いくつかの補助的パターンを示している。



図－11　トゥンガナン集落構造図



図－12　トゥンガナン集落空間配列図

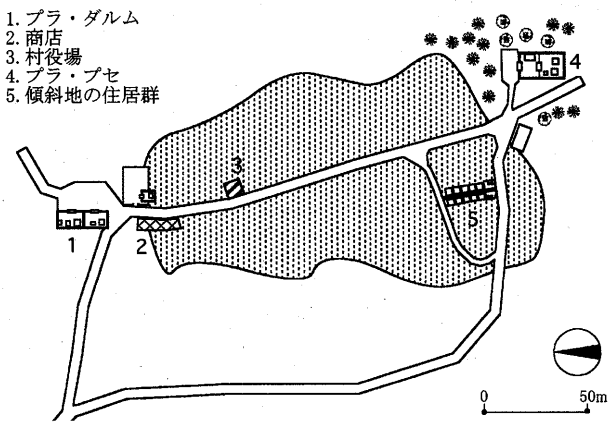
（7）第16回調査の概要

A．バリ集落の広場

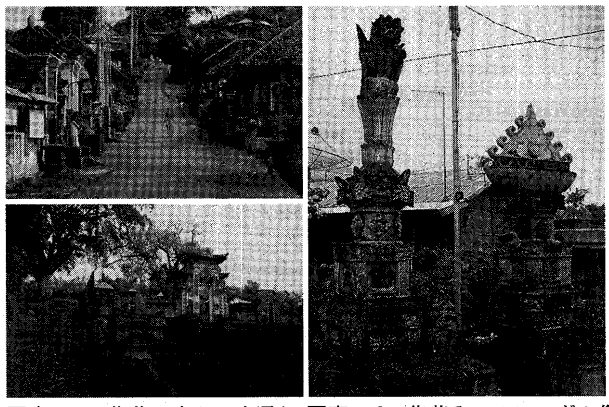
1 Sembiran スンビラン

INA-04-001

スンビランは，バリ島北部の海岸線からやや内陸に入ったところに位置する。古バリ集落であるバリ・アガ集落のひとつであり，現在もバリ固有の宗教意識を色濃く残す。集落は，バトゥル山の北斜面に配置されるため，カジャの方向が南，クロッドが北側となる。このカジャとクロッドの方位，つまり南北軸の大通りを挟んで両側に商店・住宅を斜面上に配した集落構成となっている。



図－13　集落配置モデル図



写真－1　集落の中心の大通り　写真－3　集落入口のシンボル像
写真－2　高台にあるプラ・プセ

集落の入口には村のシンボル像があり，その周辺にはプラ・ダルム，村のカントル，市場施設など，街の中心的機能が集まっている。

集落のカジャの方向，最も高い位置に寺院があり，その入口手前にバンヤン樹の巨木がある。幹には，神聖なものに巻く市松模様の布が巻かれている。模様の白は清らかさを，黒は強さを表す。この寺院とバンヤン樹が集落全体を見下ろしている。

集落西部傾斜地は複数の住戸が集まり，ひとつのブロックを構成する。そこではカジャの方向にサンガがまとめて配置されている。南北方向に通る細い通路は，洗濯場や農作業場などの機能を持つ，多目的な空間である。住宅は斜面に構成されているため通路は時折急な階段を含む。

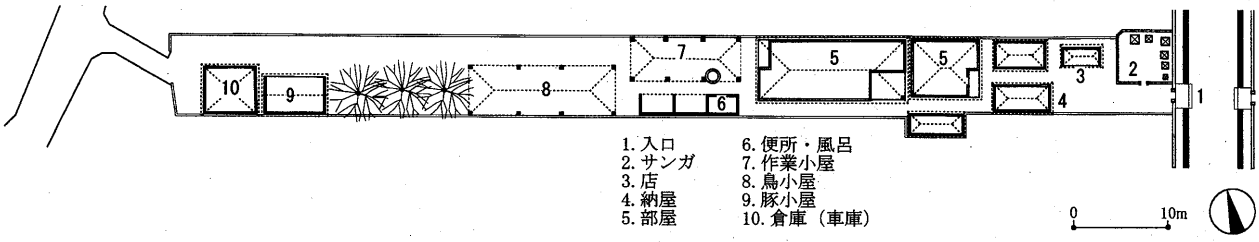
写真－4，5　西部傾斜地の住居

2 Penglipuran プンリプラン

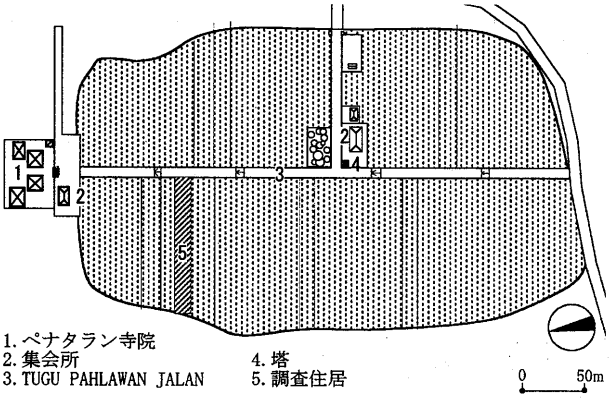
INA-04-002

バリ州中央部バンリ県はバリで唯一海岸線を持たない県である。標高600ｍの比較的涼しいこの地域は，山がちで農業には向いていない。プンリプランは1991年総合観光村の試験事業の対象となり，翌年駐車場・モデルハウス・トイレ・集会場の修復・メインストリートの舗装などの整備が行われた。1993年４月，バンリ県観光局により「観光村」として正式に指定され，以後政府主導の総合観光村として多くの観光客を受け入れている。

写真－6　南北に延びる中心の通り　写真－7　通りに面して同じ形式の門が並ぶ



図－7　プンリプラン住居平面図



図－14　集落配置モデル図

プンリプランの由来は，バンリ王朝との結びつきが深い。プンリプランの先祖が住んでいた村は，バンリ王家の葬儀の際，棺をかつぐ役割を担っていた。しかし，村が王都から遠く離れていたことから，一部住人が移住しプンリプランをつくったという。プンリプランの語源は「寺院を忘れない」の意で，村北端の先祖を祀るペナタラン寺院は，出身地の寺を模している。

そのペナタラン寺院から南へ延びる通りの両側には，門が並びその奥には東西に細長く延びる屋敷地がある。それぞれの住居は一様に，門・サンガ・台所兼寝室・儀礼の建物・西の建物から成る。これらの背後に家畜小屋などを付加している家もある。村の正式成員（クラモ・マルップ）はこの中央の通りに面した住居に住む76世帯であり，それ以外の住人は，村の付属的な成員（バラ・アンカップ）とされる。

通り中程に集会施設と広場があり，通りの南端外れには，墓地と死者を祀るダルム寺院及びダルム・ラジャ・パティ寺院がある。このように集落の配置は丘の斜面に沿って，北方高所に聖なる祖先の領域，中央に人間の領域，低い南の外れに死者の領域という構成であり，バリ・アガの線的空間構成を示している。

写真－8　ペナタラン寺院

写真－9　通り中程の集会施設

写真－10　屋敷地入口の門

写真－11　サンガ

写真－12　屋敷地内の建物

3 Bugbug　ブグブグ
INA-04-003

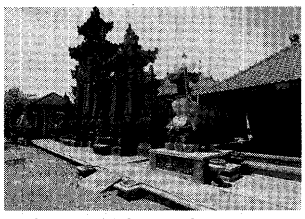
ブグブグはバリ東部，19世紀のカランアスム王国の都アムラプラから約9㎞，アグン山の南斜面にある，概ね平地の集落である。

集落の南端部は地域間道路に接し，そこから北進する道路が集落中心の帯状広場となっている。広場はジャラン　トラガ　ナンバン（またはバニュ　ウカ泉水の意）と呼ばれ，川通りの意味を持つ。かつて川が流れていた部分を埋め立て広場としたことに由来するという。この帯状広場は長さ約367ｍ，幅員は通常15ｍ，広い部分で35ｍある。広場に面し，先祖を祀る寺，村を守護する寺，評議会の集会所，バンジャールの集会所，村の木鼓，水浴場，店舗など

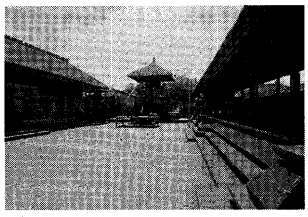
村の公共的施設が配置されている。

写真－13　帯状広場の木陰

写真－14　水浴場



写真－15　プラ・プセ

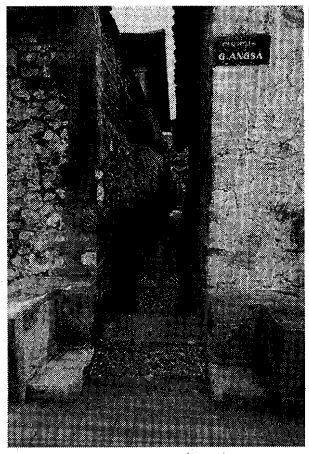


写真－16　集会施設

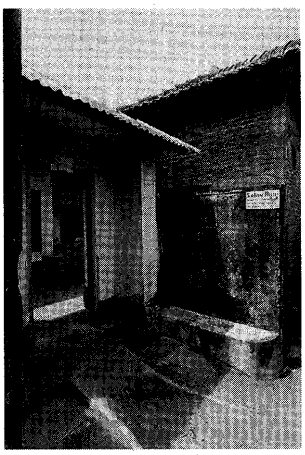
集会所は村全体で11カ所，水浴場は３カ所ある。帯状広場の中央部が膨らみそこに施設が集中しており，村のカントルもある。祭の時は帯状広場全体が使われるという。集落の人口は調査当時，2992人である。

住居入口は帯状広場と直交する幅員１ｍの細い路地に面し，その部分のみ路地は膨らみを持つ。ひとつの住居には２から４家族が暮らし，家族構成は夫婦に子供２人の平均４人となっている。

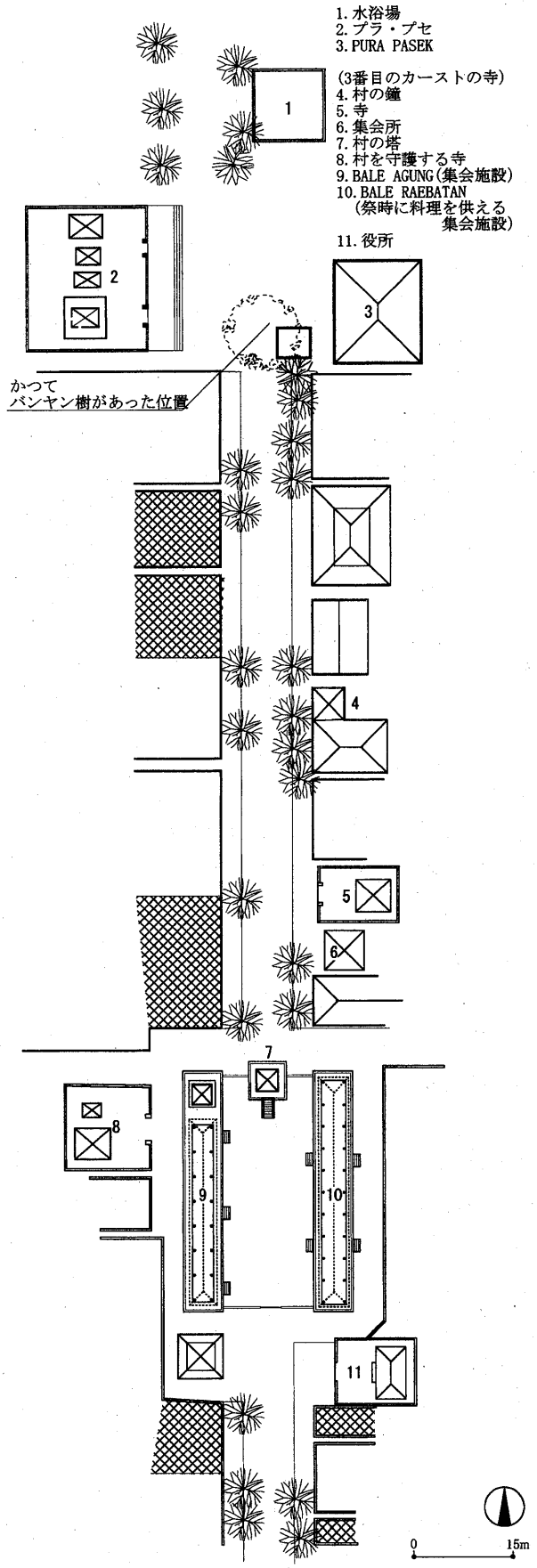
バンヤン樹は帯状広場の奥，水浴場前にあったそうだが，調査時には存在しなかった。集落の北北西が聖なるアグン山であるので，北方向がカジャを示し，南がクロッドとなっている。住居の内部は調査できなかったが概ね方形の敷地で北東方向にカジャを配置している。



写真－17　広場と直交する細い路地



写真－18　住居の入口



図－15　ブグブグ集落図

4 Tenganan

トゥンガナン
INA-04-004

デンパサールの北東約50kmに位置する，人口664人，140世帯の村である。ヒンドゥー教文化が入ってくる以前からバリに住んでいた先住民，バリ・アガの村のひとつである。そうした村の起源が村人にも認識され，1976年から村人たちの手による保存活動が行われている。面積は，村の居住部分は10haであるが，194haの森，289haの農地，255haの水田を持ち，合計約750haにも及ぶ。

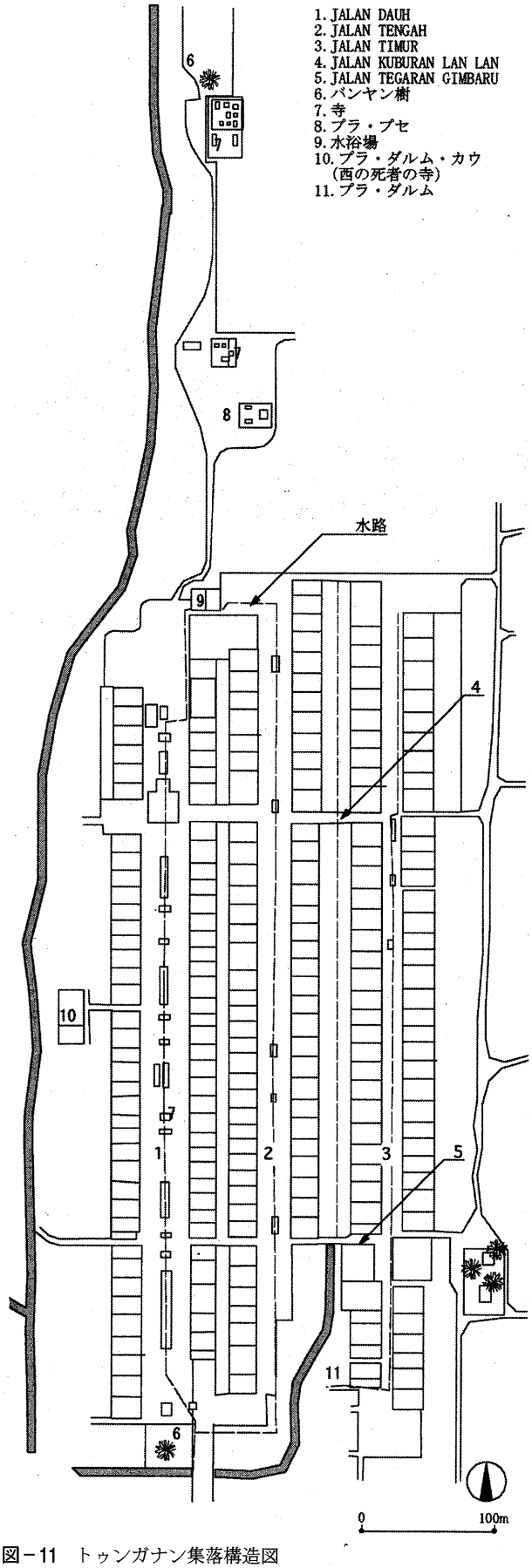
村は塀で囲われ，4つの門がある。現在そのうちひとつは閉鎖されているため，3つの門を使用している。メインゲートは南側にある門で，観光客はここで入場料を払う。

村はawanganと称する3本の帯状広場，JALAN DAUH（西通り），JALAN TENGAH（中央通り），JALAN TIMUR（東通り）からなり，両側に長屋式住居，中央に寺，集会場，倉庫などの大小様々な公共施設が配置されている。村の中心は西通りであり，公共施設もそのほとんどが西通りにある。村は通りによりBANJAR KAUH（西側のバンジャール），BANJAR TENGAH（中央のバンジャール），BANJAR KANGIN（鍛冶職のバンジャール）の3つのバンジャールを形成しているが，村の社会的権利があるのは西側と中央のバンジャールのみである。鍛冶職のバンジャールは村の掟を破り破門になった人や新たな流入者の居住地となっている。一度追放されると，本人はもちろん，その子孫ももとのバンジャールに戻ることはできない。

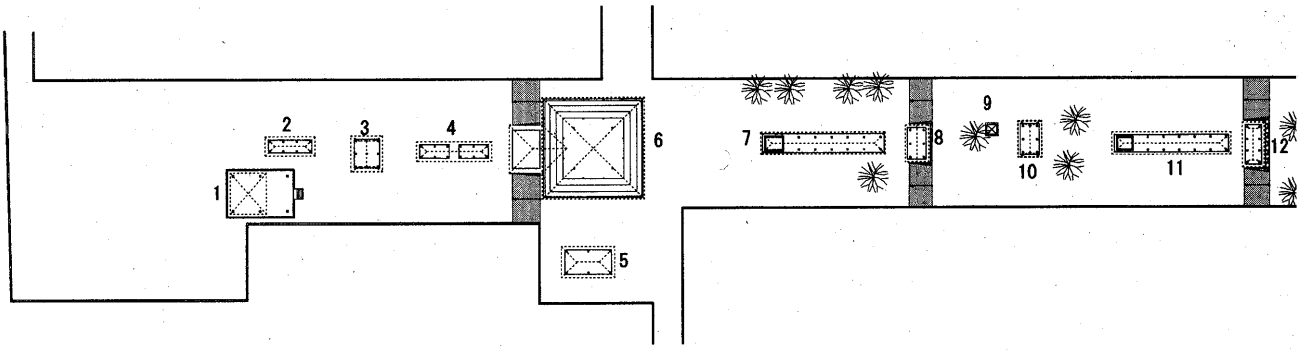
写真－19 西通り，土産物屋の露店が並ぶ

写真－20 中央通り，中央に見えるのが旧市場施設

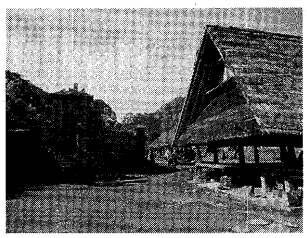
西通りには露店があり，イカットや工芸品などの土産物が売られていた。住宅の一部が土産物屋になっている場合もある。中央通りの市場施設は，現在



図－11 トゥンガナン集落構造図

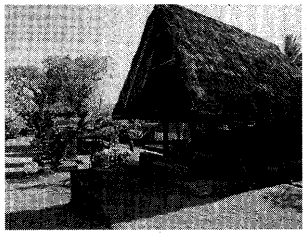


図－16　トゥンガナン帯状広場平面図



写真－21　Pura Jero(左)と Balai Banjar Kauh Ⅰ(右)

写真－22　Wantilan の内部



写真－23　Jineng Temu Kaja

写真－24　Petemu Tengah

写真－25　建替え中の Jineng Desa

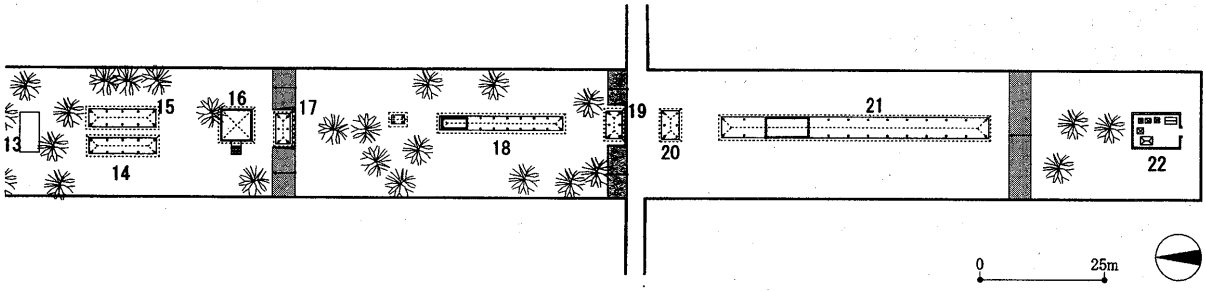
写真－26　Laapan（右）と Bale Banjar Kauh Ⅱ（左）

機能しておらず，住人は他の村の市へ行く。

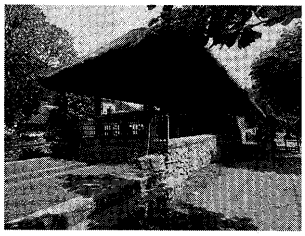
通り中央を流れる下水は，北にある水浴場や，各家庭からの排水が流される。

西通りの公共施設の名称と機能を以下に示す（図－16参照）。

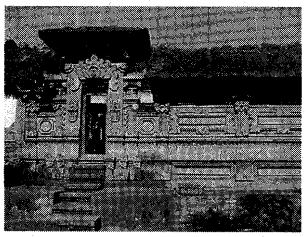
1．Pura Jero　全村人の信仰の対象となる寺
2．Balai Banjar Kauh Ⅰ　西側のバンジャールの北側に住む人々の集会所
3．Ayung　村の米倉
4．Balé Lantang　1．でオダランが行われる時の準備のための場所
5．W.C. umum　公衆トイレ
6．Wantilan　村の公共施設の中で最大規模の建物。行政法に基づく村落会議が開かれる。
7．Petemu Kaja　北側に住む若者組の集会所
8．Jineng Temu Kaja　7．の若者組の米倉
9．Pura Sanghyang　サンギャン（村独自の社会階層の最高位）の神を祀る寺
10．Jineng Sanghyang　9．に供える米を保管する倉
11．Petemu Tengah　中央部に住む若者組の集会所
12．Jineng Temu Tengah　11．の若者組の米倉
13．Jineng Desa　村の米倉。建替え中であった。
14．Laapan　奉物奉献所
15．Bale Banjar Kauh Ⅱ　西側のバンジャールの南側に住む人々の集会所
16．Pura Dalem Swarga　死霊が祀られている寺。全村人に利用される。
17．Balé Gambang　16．でオダランが行われる際，gambang（楽器）が奏でられる。
18．Petemu Kelod　南側に住む若者組の集会所
19．Jineng Temu Kelod　18．の若者組の米倉
20．Balé Kulkul　警鐘塔
21．Bale Agung　村の公共施設の中で最も神聖視されている建物。祭，儀礼，会合が行われる。日常的には村人の憩いの場となっている。
22．Pura Dadia Batu Guling　自然石を崇拝対象として祀る寺



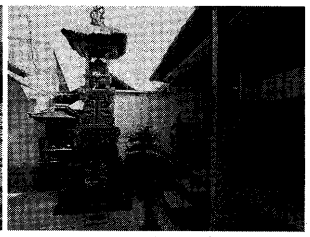
写真－27　Pura Dalem Swarga



写真－28　Bale Agung



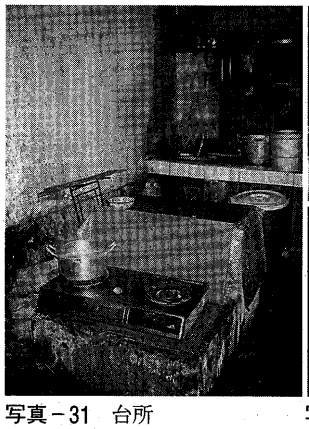
写真－29　帯状広場から見た住宅の入口



写真－30　サンガ(左)と祭の準備のための建物(右)

トゥンガナンの屋敷地入口は全て帯状広場に向かっている。入口からナタール，ナタールの両側にサンガ，入口側に祭りの準備のための建物がある。サンガはそれぞれクロッド，カジャを向き，両方向の神々を祀る。Bale　Tengah（中央の家の意）は居間，客間で，上部は米倉となっており，慣習的な行事にも使われる。人々はここで生まれ，成人の祝いを行い，臨終の際はここに寝かされる。布地店でもあるこの住宅では，商品展示の空間としても使われていた。奥に台所，トイレがある。台所の裏口の外側は豚の飼育場となっている。

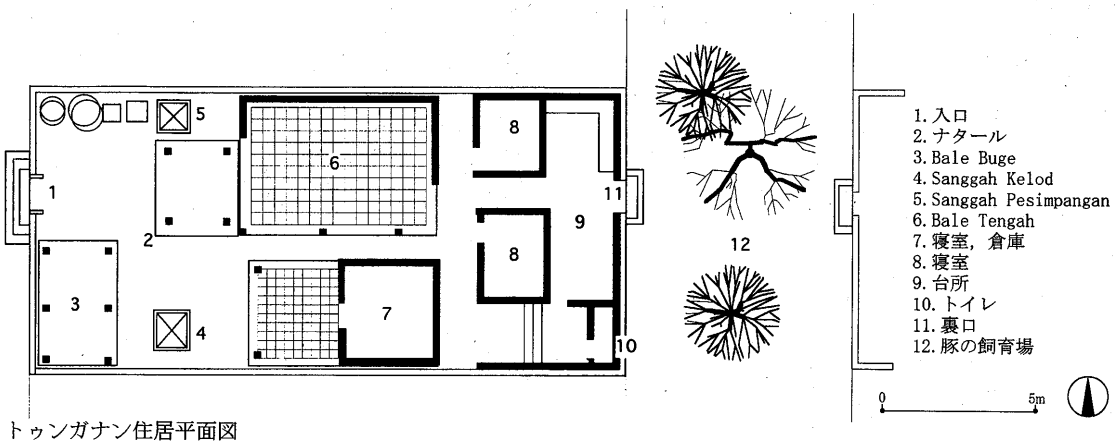
このように，屋敷地は様々な建物から形成されているが，カジャ・クロッドの方位がくずされることはなく，広場を挟んだ反対側では，配置が逆になる。屋敷地の空間は，入口から大きく宗教的空間，居住空間，作業空間にわかれ，徐々に聖性が弱まっていく。



写真－31　台所

写真－32　Bale Tengah

写真－33　豚の飼育場

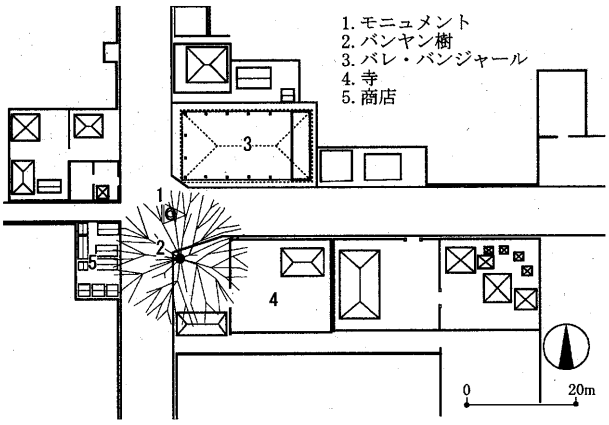


図－17　トゥンガナン住居平面図

5 Tihingan

ティヒンガン
INA-04-005

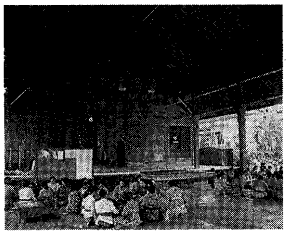
ティヒンガンは，14～15世紀バリ・ヒンドゥー王国が栄えた時代に，その中心都市であったクルンクンの王朝のためにバリの音楽楽器（ガムラン）のひとつであるゴングを製作する村であった。現在でも，そうした楽器を製作するいくつかの工房が残っている。



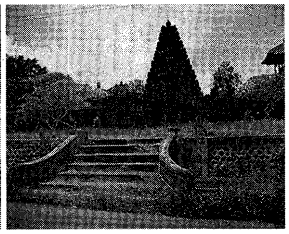
図－9　ティヒンガン集落中央部配置図

写真－34　交差部のモニュメントとバンヤン樹

写真－35　交差点近くの商店



写真－36　祭の準備が行われている集会所

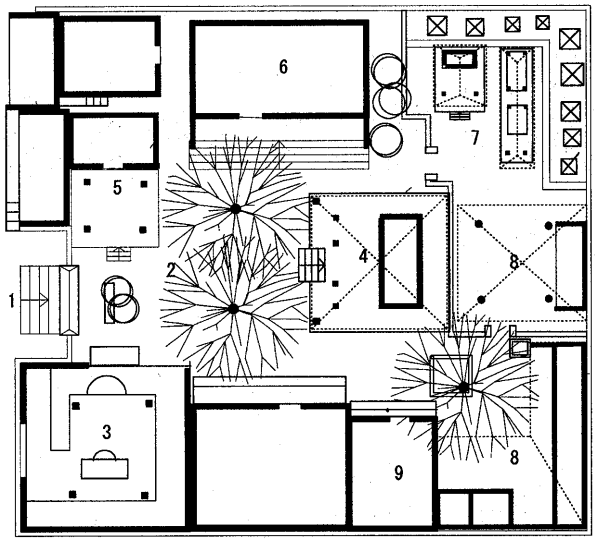


写真－37　プラ・プセ

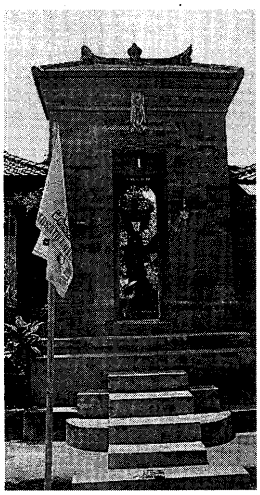
村の中心に，２つの道路の交差する場所がある。この交差点の北東角にバレ・バンジャールがあり，数日後の祭のための準備作業が行われていた。南東の角には聖なるバンヤン樹と血族グループの先祖に捧げられた寺（プラ・ダディア）がある。南西の角は商店である。

さらにこの交差点を北に進むと，村の起源となった先祖を祀る寺，プラ・プセがある。

ティヒンガンで調査した住居では，11人の家族が生活し，楽器を製造していた。敷地は約24ｍ×22ｍの矩形をしており，屋敷地の入口は南西に位置する。サンガは北東に配置され，ナタールを囲むように建物が配置されている。中央のバレ・ダギンは，祭の時に使用する建物である。バレ・ダウは子ども部屋として使用している。北西の角には，以前店として使っていた建物があるが，現在は使用していない。

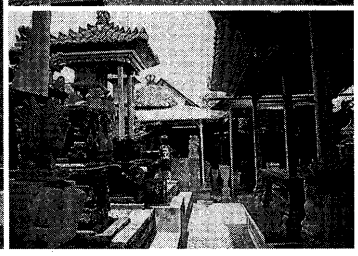


図－6　ティヒンガン住居平面図



写真－38　住居入口の門

写真－39　バレ・ダギン



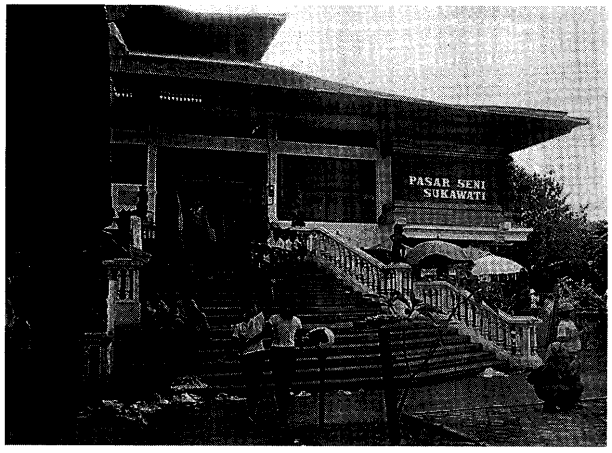
写真－40　サンガ

B．バリの市場（パサール Pasar）

バリの州都，デンパサールは「市場の北」を意味する名前のように市内に複数の大きな市場があり，商業活動が活発である。デンパサール以外の町でも，市場施設が町の中心に位置し，賑わいをみせている。今回の調査は部分的なものではあるが，調査対象の比較的規模の大きな町，デンパサール，アムラプラ，スマラプラ，スカワティ，ウブド，メングウィ，レギャンの市場（以後，市場空間をパサールと呼ぶ）の空間形態からバリのパサールの形態について特徴を探ってみたい。

事例はいずれも町の中心に市場施設があり，周辺に商店街が広がる形態を示す。市場施設は，木造の柱と屋根という簡単な造りから，堅固なコンクリート造，平屋から4階建てまで，建築形態とボリュームは町によって異なるが，複数の施設が敷地内に配置されている点では共通する。

写真－41　木造のメングウィの市場施設

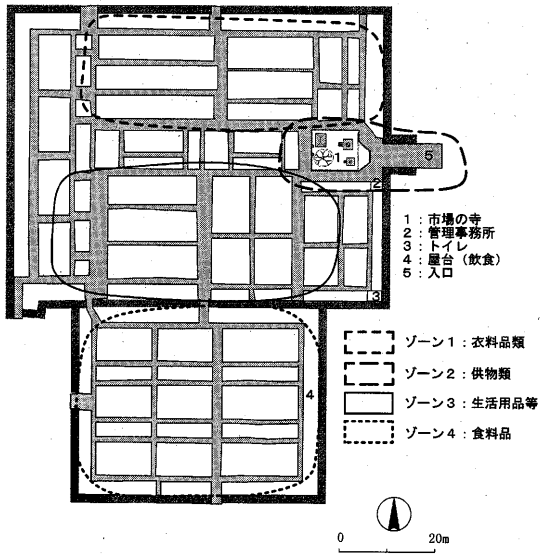


写真－42　コンクリート造のスカワティの市場施設

写真－43　デンパサールのパサール横の露店

これらの市場施設に付属する形でテントを張って営業したり，商品を台や地面に直接並べる露天商などがパサールをさらに活気づけている。

パサール内の構成をみると，取り扱う商品によりほぼエリアがわけられ，生鮮食料品エリアや乾物エリア，衣料品エリア，工芸品エリアのように分布している。図－18に示すアムラプラのパサールの場合，寺周辺には花などの寺への供物類の店が多く（ゾーン2），常設店舗や露天商が東ゲートから寺周辺にたち並ぶ。寺の北側（ゾーン1）は様々な衣類関連の店が並ぶ。寺の南側（ゾーン3）は，生活用品，嗜好品，装飾品，野菜などが混在するエリアである。さらに壁を挟んで南側（ゾーン4）は，生鮮食料品に加え，米や豆，油，香辛料，乾物など食材関連の店が並んでいる。

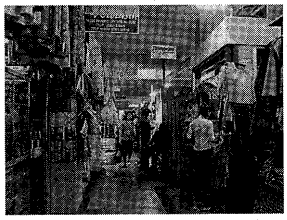


図－18　アムラプラ PASAR AMLAPURA 平面図

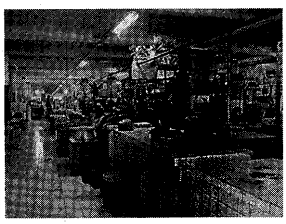
パサールの規模はそれぞれ異なるが，調査範囲ではレギャンのPASAR PAGI DESA ADAT LEGIAN 200店舗，アムラプラPASAR AMLAPURA 800店舗，スマラプラPASAR SEMARAPURA 1000店舗以上，デンパサールのPASAR BADUNG 1842店舗である。一番店舗数の多いデンパサールのPASAR BADUNGは，川沿いに位置する。川と直交する大通りから駐車場を挟んで市場施設が建つ。11カ所あるデンパサール市内のパサールの中でも，最大規模のこのPASAR BADUNGは，庶民の台所として朝4時から，夕方のナイトマーケットまで，一日中賑わう，人の絶えない場所である。

1842店舗の内訳は，店舗（大）が295軒，店舗（小）が1368軒，露店179軒である。メインの市場施設は4階建てで，各階ごとに扱う商品が異なる。4階は布，衣料品，3階は生活用品，2階は香辛料，1階は生鮮食料品で野菜や肉，魚が売られている。屋上の奥にはオフィスが並び，その内のひとつがデンパサール全体の市場管理事務所である。

写真－44　デンパサール，4階建ての市場施設



写真－45　市場施設4階の衣料品売場



写真－46　市場施設1階，魚売場

このPASAR BADUNGから北東に15分ほど歩くと鳥市場がある。このパサールは，入口が2カ所あり，平屋建ての商店が平行する2列の通りに沿って両側に並び，小動物や鳥，鳥かごを売っている。通りの突き当たり東奥は広場で，大きな樹木と寺とある。PASAR BADUNGでは，売り手も買い手も女性を多く見かけたが，この鳥市場は圧倒的に男性が多かった。

写真－47　デンパサールの鳥市場

次に規模の大きなものとしてスマラプラのPASAR SEMARAPURAがある。このパサールは現在の街の主軸となるディポネゴロ通りに面し，駐車場を挟んだ東隣にスマラプラ王宮が位置する。町には2つのパサールがあり，王宮前のこのパサールは1997年に新たに整備されたものである。A～Hまでのブロックにわけられた複数の建物が並ぶ形態になっている。道端に並ぶ露天商から，平屋で屋根と柱，陳列台の並ぶ簡素な形式や，数階建てのコンクリート造の施設に店舗を持つものまで，店舗の建築形態は多様であり，これらの施設群の間は通行のための空間がゆったりととられている。

写真－48　ゆったりとした配置のスマラプラのパサール

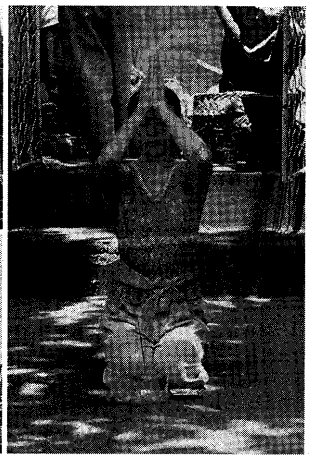
このPASAR SEMARAPURAとは対照的に，アムラプラのパサールは施設が密集し通路幅が狭いため，ただ通行するだけでも時間がかかる。これに対し，レギャンのパサールは平屋の施設のみが並ぶなど，異なる施設配置で構成される。前述のデンパサールの鳥市場も同じタイプである。

写真－49　平屋建ての店が並ぶレギャンのパサール

次に市場施設以外の施設として敷地内にある寺に着目する。アムラプラのパサールでは，メインストリートのJALAN GAJAH MADAから細い路地を抜け市場へアプローチでき，その延長上，正面にパサールの寺が位置する。

写真－50　大通りからパサールへの東ゲート

写真－51　店舗が密集するパサール内部

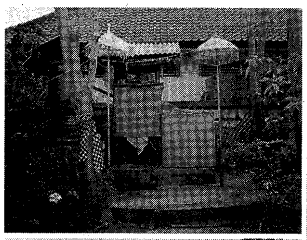


写真－52　寺で祈りを捧げる女性

その他のパサールでの寺の位置をみるとデンパサールとスカワティでは，中心となる市場施設の入口付近に位置し，スマラプラの場合は，市場施設が複数並ぶ中にある。

写真－53　スマラプラのパサール中央に立つ寺PURA MELANTING

レギャンのパサールへの入口は2カ所あり，両方から離れた奥に聖なる領域が確保されていた。デンパサールでは，市場施設北側の寺以外に東側の階段脇にも祠が祀られており，周辺に花や野菜の露店が並び，供物を捧げる女性もいた。



写真－54　レギャンのパサール奥の祠

写真－55　デンパサールの市場施設前に位置する寺

写真－56　デンパサール，祠に参詣する女性

市場施設，露天商，寺の配置はパサール毎に異なるが，パサールの領域は明確に区画され，町の中心施設として生活に欠かせない場所である。今回調査した集落においても，その中心に規模は小さいもののパサールにあたる空間が存在した（スンビラン）。ブグブグではパサールは集落外にあり，トゥンガナン，プンリプランの場合，近くの町へ買い出しに行く。限定された事例ながら，パサールが地域で重要な位置を占めることが確認できた。

写真－57　スンビランのパサール

（8）おわりに

『神々と生きる村』（資料007）にある，バリ島集落の構成が，調査により再確認された。まさに神々と共にある生活が示されていた。住居の中の神を祀る場所，集落の様々な意味を持つ寺，市場の寺，農地の中の寺や祠。そこには常に供物が捧げられ，祈る人の姿があり，そのかたわらで生活が営まれていた。それらがきわめて日常的に並行しているのがバリ・ヒンドゥーの世界であった。

文献リスト

資料001. BALI:　A TRAVELLER'S COMPANION, DEBBIE GUTHRIE HEAR 他, EDITIONS DIDIER MILLET PTE LTD., 2001

資料002. HAVE YOU BEEN IN BALI?, PT PRIMOCON NUSALESTARI, 1998

資料003. ARCHITECTURE OF BALI: A SOURCE BOOK OF TRADITIONAL AND MODERN FORMS, MADE WIJAYA, ARCHIPELAGO PRESS & WIJAYA WORDS, 2002

資料004. BALINESE ARCHITECTURE: TOWARDS AN ENCYCLOPAEDIA, MADE WIJAYA, 1984

資料005. INTRODUCTION TO BALINESE ARCHITECTURE, JULIAN DAVISON 他, PERIPLUS EDITIONS, 2003

資料006. THE SPIRIT JOURNEY TO BALI AGA, TENGANAN PEGRINGSINGAN, MADI KERTONEGORO, HARKAT FOUNDATION, 1986

資料007. 神々と生きる村　王宮の都市　バリとジャワの集住の構造，鳴海邦碩　他，学芸出版社，1993

資料008. ロンリープラネットの自由旅行ガイド　バリ島，ケイト・デーリー，メディアファクトリー，2003

資料009. 地球の歩き方D26　バリ島，地球の歩き方編集室，ダイヤモンド・ビッグ社，2002

資料010. 個人旅行⑮　バリ島，K&Bパブリッシャーズ，昭文社，2003

資料011. ワールド・カルチャーガイド⑯　バリ島　芸能の島の真実！，WCG編集室，トラベルジャーナル，2000

資料012. 講談社現代新書1395　バリ島，永渕康之，講談社，1998

資料013. 都市・集まって住む形　朝日選書398，鳴海邦碩，朝日新聞社，1990

資料014. 南方文化　第9輯，天理南方文化研究会，1982

資料015. 季刊　民俗学　73号，木村　滋，千里文化財団，1995

資料016. バリ　王都の空間構造と楽園の形成過程，法政大学大学院　エコ地域デザイン研究所　歴史プロジェクトアジアまち居住研究会，2005

資料017. バリ島　ガルンガン＆クニンガン，http://bali.cside.com/budaya/galungan/htm, 2004/8/9

資料018. インドネシア・バリ島の農村観光地づくりにおける伝統的な社会環境管理制度の役割（タマット・アリ修論），http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/works/w00/ari.html, 2004/8/9

資料019. villages in Bali, http://bali.sawadee.com/villages.htm, 2005/4/12

資料020. BaliAga.com, http://www.baliaga.com/english/tour/e_wst9_tihingan.html, 2004/8/9

資料021. 外務省　最近のインドネシア情勢と日・インドネシア関係，http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/indonesia/kankei.html, 2005/4/23

資料022. 初期バリ島観光ツアー　Back to The 1924（ARJUNA オリジナル）解説，http://www.arjunabali.com.travel/optour7.html, 2005/4/23

（あしかわ　さとる　　生活環境学科）

（かねこ　ともみ　　生活環境学科）

（つるた　よしこ　　現代教養学科）

（たかぎ　あきこ　　生活環境学科）

（たんせい　たみ　　平成16年度生活機構研究科修士課程修了）